

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672100027		
法人名	社会福祉法人 北星会		
事業所名	グループホーム天橋の家		
所在地	京都府宮津市宇惣421番地の1		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672100027&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672100027&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成 22 年 4 月 12 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地しており駅から近く近隣にはスーパー、喫茶店、医院などがあります。当事業所は2階にあり大きな窓から見える山々の景色や季節を目で楽しむことが出来ます。また特別養護老人ホームやディサービスが併設されており、レクリエーションや行事を合同で行うこともあり、幅広い方との交流を行っています。食事面では会議や行事等を除いては基本的には3食すべてを職員と入居者の方で協力しながら調理しています。入浴面では入居者の方の希望に沿って夕食前、あるいは様子を見ながら夕食後に実施しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームを改築した当該ホームは、居室、廊下、リビング、キッチンともに広々としており窓や天窓からの採光もあり、非常に明るく過ごしやすい生活の場となっています。キッチンはオープンになっており、料理の匂いがリビングに漂い、職員と一緒にエプロン姿の利用者が食事作りに励んでおられます。敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスが併設されており合同で実施する行事もあり、たくさんの方とふれ合う機会もあります。また畑で野菜を収穫したり、雑巾縫いや、ランチョンマットを作ってくれるボランティアが訪れたりしています。近隣の保育園の運動会にはプログラムの中に利用者の参加が組み込まれるほどの親密な交流があり、地域との良好な関係が構築されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所独自の運営方針を目的のつく場所に掲示し、日々取り組んでいる。	理念はホーム開設時に3つの誓いという法人の方針をもとに職員間で話し合い作られた。地域との関わりを大切に、ゆっくり・ゆったりをベースに「第二の我が家をめざして」という独自の理念を目につくところに掲示し、毎月のカンファレンスは理念を振り返る機会としている。	理念に沿ったケアができていないか職員間で確認し、理念の共有に向けてさらに取り組まれるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行われておらず、また新型インフルエンザ感染予防の為、外出等を制限した期間もあったが近隣の保育所訪問、ボランティアの受け入れ等を行い、地域の方との交流の機会を設けている。	事業所のたよりをホームページに毎月掲載し、また、法人の広報誌を地元自治会の皆さんに回覧することで一人でも多くの方に暮らしの様子を知っていただくよう努め、盆踊りや道路清掃等の地域への行事に参加して地域との交流を図っている。また中学生の職場体験の受け入れや、保育所から例年運動会の招待がありプログラムに組み込まれ親密な関わりがある。また、ボランティアの協力のもとでランチョンマットや雑巾を作製し、手縫い雑巾を小学校に寄付する取り組みなど、地域との良好な関係が構築されている。	老人会や学校などとの付き合いも、さらに深めホームにも来てもらうような企画をされてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元老人会と共催で認知症サポーター養成研修を行うことができ、今度も継続していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、情報交換しサービスの向上に活かしている。	地元自治会長、民生児童委員協議会、宮津市介護相談員、地域包括支援センター職員、家族、法人事務局長等の参加を得運営推進会議は2カ月に1度開催されている。入居者の状況や活動報告、事業所に対する要望や評価、助言等を頂き運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との関わりは管理者が中心となり行っている。	市担当者に広報誌を届けたり、相談事があるときは訪れ、お互いに情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スロープ出入口にはチャームを設置し日中は鍵を掛けない取り組みをしている。	併設する特養施設で開催される研修に参加したり、外部研修を受講し、月1回の会議にて資料回覧や伝達研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けないケアについては職員間で話し合い、チャームを取り付け対応している。出かけた人、帰宅願望のある人には可能な限り職員が付き添い一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講した職員から伝達研修として、他の複数の事業所の職員と学ぶ機会を作り、虐待の防止に努めている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方は、おらず事業所として学ぶ機会はないが各職員が研修等に参加した際、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し理解を得ている(特に利用料金、退居に関して)。また面会時等にも質問、疑問点に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見を取り入れる体制を取っている。また面会時等の家族との話も大切にしている。	月に1度は、家族の面会の折におたよりを渡したり、意見を聞く機会としている。また年に2回家族参加の行事を開催し、要望等を聞くようにしており、出された意見や要望には職員間で話し合い対応している。	出された意見への対応策について、他の家族にもわかるようにおたより等に掲載されてはいいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場からの要望があれば、必要に応じて会議への出席や個別面談等を行っています。また、日常的には主任を通して意見や提案を聞き、意見交換するように心掛けています。	主任が窓口となり職員の意見を吸い上げ、施設長に報告をしている。また、日常的な面談はないが年2回個人面談を行っており、職員が意見を言いやすい体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は6ヶ月に一度、業務管理・評価シートを作成し、主任と面接する中で、振り返りと今後の目標等を確認する機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別の研修希望を調査し、各人のモチベーションの向上に心掛けています。また、計画的に認知症介護実践者研修への受講を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府下のグループホームが任意に加盟する協会に参加し、研修会や他施設への派遣研修などを通してサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前は馴染みの方が通っている併設施設のデイサービスへ面会に行っていたが現在は新型インフルエンザ流行等もあり行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り入居者の方と共に行動し、よい関係を築いている。料理等、入居者の方から職員が教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る限り面会に来て頂いたり電話で話をさせていただいている。また受診も可能な限り家族に付き添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物、地元の行事等へ行き、馴染みの方に会ったり、ドライブ、外出等で馴染みの場所へ行く機会を設けている。	外出の機会に近所の人と話をしたり、昔の知人に会いに行くなど、関係が途切れないような支援を心がけている。また、デイサービス利用の知人が訪ねてくれることもあり、良好な関係が続くよう配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール(共有スペース)で過ごされる方が多く、様子を見ながら職員が間に入り、よい関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特に相談、支援は行っていないが入所された施設へ行った際は本人に会っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、ミーティングで本人を中心に考え、またセンター方式も少しずつ利用し希望、意向の把握に努めている。	センター方式を利用しながら意向の把握に努めており、さらに担当制を設け職員が利用者の立場に立って直接希望や意向を聞き取るようにしている。時には家族からの情報も記録に残し職員間で共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅ケアマネジャー、以前の利用施設、家族等から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況は毎朝のバイタル測定で把握し一日の過ごし方等はケア記録、引き継ぎで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを中心に作成している。また家族からは面会時に想い等を聞く機会を設けている。	利用者、家族の意向に沿った介護計画が立てられており、3か月後に評価しカンファレンスを開催し評価している。ケアマネージャー、その他の職員が参加しているが、参加不可能な場合は前もって意見を記入してもらい集約している。6か月ごとに見直しをしているが、状況に変化があった場合はその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに個別記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、職員間で相談し対応している。また医療面に関しては併設施設の看護職員の協力を得ている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に訪問して頂き、歌、手作り雑巾の作製、折り紙等個々に合った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも在宅時のかかりつけ医を継続し、受診は可能な限り家族に付き添って頂いており、また必要に応じて往診にも来て頂いて支援している。	入居前のかかりつけ医を基本としており、急な受診に関しては職員が対応をしている。急な発熱の場合は往診を依頼することもある。また、併設の施設の看護師からアドバイスをもらうこともあり、安心できる体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の特養看護職員と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き様子を把握している。また退院に向けて職員、家族、医師でカンファレンスの開催をお願いし、連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間で話し合い、見極めをして家族に状況等を伝え話し合いを行っている。	事業所としての基本的な方針はないが、医療行為が伴わなければ家族等と話し合いをし、できる限り支援するという方向で考えて支援している。ホームでの入居継続が困難な場合は、次の転居先や入院先等の紹介もしている。	家族の思いを聞き、話し合いながら、状況に応じた対応を家族の協力を得て支援できるよう方針や体制作りを検討されてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行われておらず、急変時等にはマニュアルに従い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、併設の特養施設と合同で行っている。	年2回、昼・夜間想定避難訓練を実施しており、消防署からも可能な限りの協力がある。また隣に京都府職員寮があり、非常時の協力をお願いしている。	火を出さないための工夫など、近所への情報提供や具体的な応援体制の依頼等運営推進会議を通して行われてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	希望者は自室の鍵を携帯し施錠等もしている。また声掛けもプライバシーを損ねないような声掛けをしている。	日頃から人生の先輩という思いを念頭に置き、接するよう心がけている。態度、言葉遣いについても常に注意をし、硬過ぎず、軟らか過ぎず、自然な関わりに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から外出の希望などを聞いている。また日々の生活の中で可能な限り、自己決定していただく場面を作り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況で出来る限り入居者との会話を中心に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアに来て頂き、化粧をしたり、訪問美容でカットをしている。また個人で化粧水、クリームを持ち身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型インフルエンザ感染予防の為、外食にはほとんど行けなかったが誕生日には誕生者の希望を聞き、好物を昼食のメニューにしている。また食事準備、片付けは入居者の方と共にしている。	ホームでの収穫物を利用しながら利用者の好みを聞き、職員が中心になってメニューを考えている。利用者と一緒に食事を作り、後片付けも一緒に行っている。誕生日には個々人の要望に合わせて好みのメニューを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	畑で収穫した新鮮な野菜や地元の物を使用し料理している。また入居者の体調不良時等、必要に応じてメニューの変更も行っている。水分補給は全体的にやや少ない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、番茶でうがいをしている。		



グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し引継ぎ等で情報を共有している。	記録から排泄パターンを把握し、夜間の排泄誘導や失禁パンツの利用、紙パンツから布パンツに変更するなど、職員間で話し合いながら個々に合わせた自立に向けての支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御飯に寒天を入れたり、毎日、ヤクルトを摂取したり朝食時ヨーグルトを出し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は夕食前、夕食後に行い、時間帯、順番等は入居者の希望を聞き支援している。	週に平均2~3回入浴され、4時頃から夕食前までの時間であれば希望に合わせて対応している。また、順番や温湯についても希望に沿うようにし、ゆっくりと入浴できるよう工夫をしている。拒否のある場合は職員を変えて声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人の希望で自室、ホールの畳の間で行っている。また就寝時には安心して休んでいただける様に温度管理などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬資料を個別にファイルに綴じ整理して必要に応じて確認している。また服薬の準備は職員2名で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日、クリスマス会&忘年会や季節にあった行事、活動(おはぎ作り・大根干し)を行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型インフルエンザ感染予防の為、制限はあったが買物、散歩、ドライブに職員と一緒に出掛けている。	天気の良い日は希望にそって、住宅街の散歩や、施設内の庭や畑へは日常的に出かけている。また、ドライブを兼ねて同一法人の施設にある喫茶を利用したり、回転寿司を食べに出かけ、できるだけ戸外に出られるよう支援をしている。花見の希望もあり予定をしているところである。	



グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人の希望に合わせて金額は少ないが自分で管理していただいている入居者がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をしていただいたり家族から掛けていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が多く外の景色がよく見える。ホール内は広く、ゆったりと過ごせる空間になっている。また花等を飾り季節を感じてもらえるようにしている。	廊下やリビング等、明るく広々としており、季節の花があちこちに生けられている。ソファに座りテレビを観たり、畳コーナーには、ホーム炬燵がおかれ、ちょっと横になれるスペースもある。利用者が思いおmoiの場所でゆったりと居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下にソファ、こたつ、食事用の椅子があり個々で好きなところに座りゆっくり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し以前、自宅等で使用していたものを持って来ていただく様に工夫している。	居室も明るく広々としていてソファなど自宅で使用していたものを持ち込まれている。また希望があれば畳にも変更でき安心して生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、段差もほとんどなくコール、手すり等を設置しており安心した生活が送れるようになっている。またトイレ等には案内板を設置し入居者に分かるようにしている。		